

令和2年度 関東地域国際化協会連絡協議会  
「災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業」実施報告

ブロック	関東ブロック	幹事団体	公益財団法人かながわ国際交流財団
開催日時	2021年1月15日(金) 13:30~16:00		
研修のねらい・目的	過去の災害発生時に、実際に行われた被災外国人に対する支援活動を参考に、各参加団体および団体間において、現時点で出来ていることを確認するとともに、今後、取り組んでいくことを明らかにすることを目的とします。		
会場・場所	ZOOM		
参加者	地域国際化協会関東ブロック構成団体、関東地域の地方自治体 77名		
研修内容 (概要)	<p>13:00 ○Zoom 接続開始、使い方・名前の表示等確認</p> <p>13:30 ○趣旨等説明</p> <p>○参加者自己紹介</p> <p>13:45 ○導入講義「各地の多言語支援センター設置運営の特徴」 土井 佳彦氏 (NPO 法人 多文化共生リソースセンター東海)</p> <p>14:00 ○事例紹介</p> <p>1) 大阪北部地震 (2018) における府財団の取組 吉川 友香氏 (公益財団法人 大阪府国際交流財団) 質疑応答</p> <p>2) 新潟県中越沖地震 (2007) における市協会の取組 清水 由美子氏 (公益財団法人 柏崎地域国際化協会) 質疑応答</p> <p>15:05 ○休憩</p> <p>15:10 ○グループディスカッション</p> <p>15:30 ○全体共有・質疑応答</p> <p>16:05 ≪終了≫</p>		
グループ発表 (抜粋)	<p>・組織なので、職員が異動や退職などにより、災害対応のスキルが落ちてしまうので、訓練でスキルアップを図る。クリアの補助金100万円を有効に活用したい。チェックシートの活用。防災担当課も巻き込んで一緒に研修。</p> <p>・事例発表は参考になることが多かった。近畿ネットワークがとても素晴らしい。情報を多言語化にするに当たって、自分の市だけだと対応できない言語を協力してもらえると助かる。協会のほうでは、実際どんなこと、どんな地域に依頼してよいか分からない。</p> <p>・今回は地震対応の話だったので、水害だったらどんな対応の違いがあるのかを知りたかった。人と人のつながりが大事だなと思った。台風の時の対応で、関係団体との調整がうまくいかなかった。もし自分のところに被災したら、ボランティアにお願いしづらい、県や周りの市町村に助けてくれるところがあればいい。防災訓練では、外国人が中々参加してくれないという現状がある。</p> <p>・事前の備え、防災部署との連携。</p>		

・ボランティア確保の体制、受入関連。災害時に県から市町村への連絡が躊躇してしまうことがあるが、情報を取ることも大事で、ぜひ積極的に連絡を取っていただきたい。今日の研修のように、顔の見える関係を構築することができて、よかったです。

・東京都も大阪と同じ、観光客が多いので、きちんと考えなくてはいけない。柏崎市災害時にスピーディな対応に驚いた。自治体は縦と横の連携は今後考えなければならない。災害時多言語支援センターはマニュアル通りに動けないことも分かって、今後も考えなければならない。他の団体と連携、訓練を一緒にやっていきたい。吉川先生のところの「災害時優先発信電話」は月どのくらいの料金になるのか。

・大変有益な研修。各部署との連携が難しい。普段顔の見えるつながりがとても大事。外国人市民にどうやって情報を届けるか、グループに属しない外国人はどうしているのか。市から市への支援は難しい、どうすればうまく連携できようになる。

・エリアが広い、市として避難所に通じて情報収集ができるが、県はどうしたらいいのか。市内の協会と協定を結んでいて、被災した場合はどうすれば。災害時の体制づくり。一体制しか考えてない、複数の体制を考えなければならない。広域的な協力がほしい。多言語化の確保が必要。長野県の場合は逆に市町村のご協力をしてほしい。



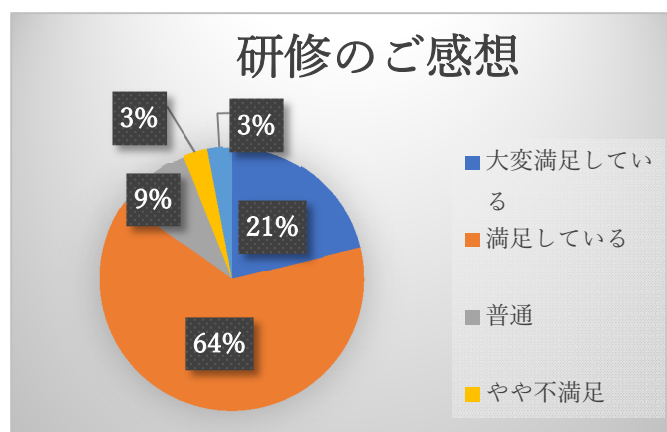
(研修中の様子)

参加者アンケート結果

参加者 77名のうち、アンケート回収は 33名分

**1. 今回の研修に参加されたご感想をお聞かせください。**

大変満足している	7名
満足している	21名
普通	3名
やや不満足	1名
未回答	1名

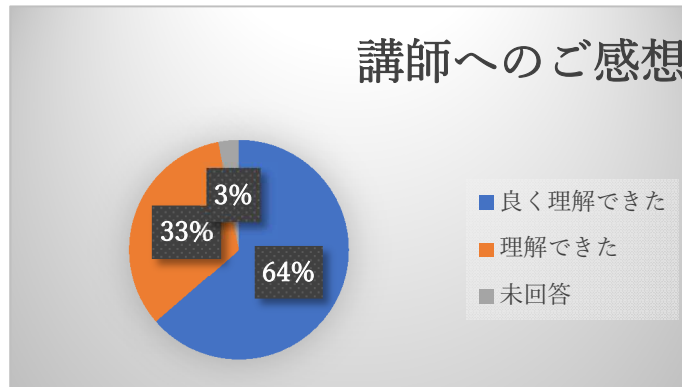


【上記理由】

- ・移動等の時間を要さず、多くの話を聞くことができた。
- ・災害時多言語支援センターの事例を具体的に聞いて大変参考になった。また、県ごとのグループディスカッションでは、同県の自治体で同じような悩みを持っていることを共有でき、土井先生から具体的なアドバイスもいただけてよかった。
- ・市として、今足りてないもの、今後やるべき事がみえた。
- ・Zoom でのグループ討議は初めてだったが、実際に顔の見える関係を築くうえでも非常に有効であると思った。
- ・もう少しグループでの話し合いの時間が長い方がありがたかった。 など

2. 本研修講師へのご感想をお聞かせください。

よく理解できた	21名
理解できた	11名
未回答	1名



【上記理由や講師への希望事項などをお書きください】

- ・実際の体験談を交えた話を聞くことができたので、理解しやすいと感じた。
- ・基本的なことから変わりやすくお話しただけなのが良かった。また、事例発表では災害当時の状況や実施したこと、あえてやらなかったことまでお話しただけなのは、自分の市で災害が起こったときの外国人支援の際の参考になると感じた。
- ・自治体の規模、支援の形態が全く違うケースに触れることが出来た
- ・コロナ禍収束後もオンライン研修の継続を希望。
- ・よく理解できた部分ともう少しお話が聞きたかった部分があるが、時間が足りなくて質問できなかったのが残念だった。 など

3. 今後、開催してほしい研修等ございましたら、ご意見をお聞かせください。

- ・実際に大地震が起きたと仮定した上での連携訓練
- ・引き続き具体策、経験談を伺える機会があると良い。
- ・実際に災害多言語支援センターを設置した地域において、携わった県・市・国際交流団体等、それぞれの視点での事例発表を聞きたい。
- ・風水害発生時の対応は震災対応とどのように違うのか知りたい。
- ・行政（国際関係、防災関連）と国際交流の団体が連携して、非常時の体制を構築できるような研修。
- ・関東ブロックで支援を要請する場合の流れ、支援内容の整理 など